

令和7年度 第3回 曳馬中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年2月19日（木） 10時00分から11時30分まで
- 2 開催場所 曳馬中学校 校長室
- 3 出席委員 鈴木 芳次、鈴木 秀住、平間 良明、上原 敬浩、
小粥 達也、永井 基紀、高橋 脩夫
- 4 欠席委員 中川 恭子
- 5 オブザーバー 野川 敬司（曳馬協働センター）
- 6 学 校 上田 高之（校長）、山下 剛功（教頭・CS担当）、
木村 恵美（主幹教諭）、今田 明子（CSディレクター）
- 7 傍聴者 1人
- 8 会議録作成者 CSディレクター 今田 明子
- 9 議長の選出
司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、永井委員が、本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。
- 10 協議事項
 - (1) 令和7年度学校関係者評価
 - (2) 令和8年度学校運営の基本方針の概要説明
 - (3) 学校運営協議会の自己評価
- 11 会議記録
司会の教頭山下から、委員総数8人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。
 - (1) 令和7年度学校関係者評価
議長の指示により、主幹教諭木村から、別紙資料に基づき令和7年度学校関係者評価について説明があり、委員からは、以下の発言があった。
 - ・⑬の生徒評価が低い。どんな便りを渡していないかを捉えておく必要がある。さくら連絡網でも保護者に配信しているならよい。（平間委員）
→さくら連絡網でも配信しており、生徒が迷った項目だったかもしれない。（主幹教諭）
 - ・③の保護者評価が低い。公開授業を増やしても個々の手助けにはならず、保護者評価に結び付かない。生徒評価は悪くないため、今のまま、一人一人の生徒に親身に接していけばよい。（上原委員）
 - ・⑫の生徒評価が去年も低かった。小学生時代より地域との関わりが希薄になる。PTAの資源回収も地域の活動だという発信をして欲しい。学校でも地域と関わる企画を組んで欲しい。（小粥委員）
→資源回収は回収物の量に対して役員の負担が多く、場所の確保も大変であることから、来年度いったん廃止する。他の方法でボランティアの企画を考えていく。（永井委員）
→生徒は来年度、部活動が減り、時間の余裕ができてくる。PTA 役員の負担の問題なら、生徒が安全に取り組めるよう大人がどう協力するか検討してもいい。（平間委員／芳次委員／秀住委員）
→防災訓練に参加しても参加印がない。活動を評価に繋げ、子どものやる気を引き出す仕組みづくりをして欲しい。協調する力を身に付けさせたい。（平間委員）
→防災訓練の日は市全体で部活動を無しにしている。協働センターまつりでのボランティアだけでなく、青少年の家で年間20回以上活動し資格を取った生徒も2人いる。（上田校長）

- 社協の中学生ボランティア養成講座（常盤工業共催）では、14人の生徒が継続参加の意思を示していた。単発での開催ではなく、継続性を持たせ、継続参加者が教える側に回るなど経験値を積んでいくような仕組みを作っていきたい。（秀住委員／高橋委員）
- ボランティア部のような活動は行えないか。運動や勉強が得意でない生徒、放課後や休日することがない生徒に活躍できる場を与えたい。ボランティア参加証明書等を整備することで、調査書等にも反映できる仕組みづくりをしてほしい。（小粥委員）
- 1年生は総合で防災の勉強をしており、ふじのくにジュニア防災士の資格もとる。（校長）
- 自治会のイベントの高齢化が進んでおり、若い力が入ってこない。まつり等に中高生が入ってくれば地域とのつながりが強化される。（平間委員）
- 地域の課題に気付き、解消に一役買ってほしい。独居老人の手助けやゴミ出しの手伝いなど課題はたくさんある。（秀住委員／平間委員／芳次委員）
- 新年度より、地域学びを一日かけて行い、郷土愛を育てていく。（校長）
- 知識だけでなく、行動を重視して欲しい。（平間委員）
- ・⑨いじめ対策への保護者評価が低い。取組や対策がうまく伝わっていないようなので、年度初めにさくら連絡網等で方針を発信するとよいと思う。（永井委員）

(2) 令和8年度学校運営の基本方針の概要説明

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき令和8年度学校運営の基本方針の概要説明について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・発達障害を持つ生徒は増加傾向にあるか。社会的に自立し、企業に就職できる教育をしてほしい。学校から社会へのつながりを意識した発達支援教育を行ってほしい。（平間委員）
 - 市内全体では増加傾向にある。発達支援学級は8人に1人の教員が付き、手厚いが入級には保護者の承認が必要である。通常級の中でも支援が必要な生徒もいる。本校では、教室に入れない生徒をまつば教室で、発達支援教育をあおば教室で行っている。（校長）
 - 子供の数は減っているのに問題を抱えた子供は増えている。学校だけで抱えるのではなく、学校、施設、企業がそれぞれにできることをしていく必要がある。（秀住委員）
 - 保護者が入級させたくない気持ちもわかる。学校も対応が難しいと思う。（芳次委員）
 - 発達支援教育を根幹に据えるしかない状態だと思う。（平間委員）
 - ・通常級で明らかに発達障害を持つ生徒が悪気なく他の生徒に迷惑をかけた、授業の妨害したりする場合、学校として対応できることはあるか。（小粥委員）
 - 現状、本校ではない。特性のある生徒は専門家との連携をし、フォローする。市教委と連携して、保護者と話し合いの上、登校時間を制限することもある。（校長）
- 協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(3) 学校運営協議会の自己評価

議長の指示により、教頭から、別紙資料に基づき学校運営協議会の自己評価の概要説明について説明があった。来年度の目標に「ボランティア活性化の仕組みづくり」「防災」を盛り込むことを確認した。

その他報告事項等

- ・報告
 - (1) 学校支援コーディネーター研修会の報告があった。（平間委員）
 - (2) 部活動の地域展開について報告があった。（校長）
- ・連絡事項
 - (1) 80周年記念事業の内容について連絡があった。（教頭）
 - (2) 次年度の委員について連絡があった。（教頭）
- ・今後の予定

令和8年度第1回運営協議会：令和8年5月13日（水）10:00～

以上